

◎指示があるまで開かないこと。

(平成 30 年 2 月 10 日 13 時 45 分 ~ 15 時 20 分)

注 意 事 項

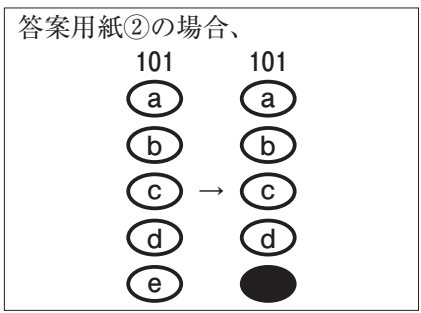
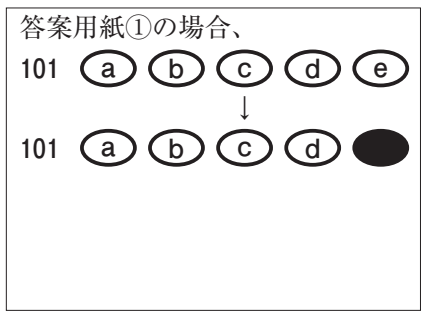
- 1. 試験問題の数は 49 問で解答時間は正味 1 時間 35 分である。
- 2. 解答方法は次のとおりである。

各問題には a から e までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した
選択肢を 1 つ選び答案用紙に記入すること。

(例) 101 医業が行えるのはどれか。

- a 合格発表日以降
- b 合格証書受領日以降
- c 免許申請日以降
- d 臨床研修開始日以降
- e 医籍登録日以降

正解は「e」であるから答案用紙の **(e)** をマークすればよい。



- 1 標準予防策<standard precautions>について正しいのはどれか。
 - a 患者を隔離する。
 - b 医療者の手指衛生を徹底する。
 - c 感染症と診断してから開始する。
 - d 感染症の治療が済んだら終了する。
 - e 特定の感染症への対策として実施する。

- 2 院内の医療安全を推進する上で誤っているのはどれか。
 - a 医療安全に関する研修を行う。
 - b ヒヤリハット事例の検討を行う。
 - c 誰でも間違える可能性があることを理解する。
 - d 薬液を使用する際に声出し指差し確認を遵守する。
 - e 医療事故調査を行う目的は責任を追及するためである。

- 3 多数の傷病者が発生した場面でトリアージを行う際、脈拍108/分、整、呼吸数14/分で、歩くことはできず、簡単な指示に従うことができる状態の患者に適用すべきトリアージタグはどれか。
 - a 黒タグ
 - b 赤タグ
 - c 黄タグ
 - d 緑タグ
 - e タグなし

- 4 成人の筋骨格系の診察において正しいのはどれか。
- a 徒手筋力テストで筋収縮のみが認められる場合は1と評価する。
 - b 下腿周径は膝蓋骨下縁から5 cm 遠位の部位で測定する。
 - c 下肢長は恥骨結合から母趾爪先までを測定する。
 - d 膝関節の可動域は6方向を測定する。
 - e 大腿周径は最大周径で測定する。
- 5 造影CTを施行するにあたり事前に確認すべきこととして最も重要なのはどれか。
- a 喫煙歴
 - b 飲酒歴
 - c 肝機能
 - d 腎機能
 - e 認知機能
- 6 解釈モデルを知るための質問として適切でないのはどれか。
- a 「症状をあげていただけますか」
 - b 「どんな治療が必要になるとお考えですか」
 - c 「病気が治ったら生活はどう変わりますか」
 - d 「病気があることでどのようにお困りですか」
 - e 「原因について思い当たることはありませんか」

- 7 子宮頸癌罹患と最も関連が深いのはどれか。
- a 飲 酒
 - b 喫 煙
 - c 睡 眠
 - d 塩分摂取
 - e 身体活動
- 8 急性呼吸窮迫症候群〈ARDS〉の病態について正しいのはどれか。
- a 肺死腔減少
 - b 肺内シャント減少
 - c 肺血管透過性亢進
 - d 肺サーファクタント増加
 - e 肺コンプライアンス増加
- 9 老人性難聴の発症に最も関連が深いのはどれか。
- a 鼓 膜
 - b 耳 管
 - c 耳小骨
 - d 迷路動脈
 - e 有毛細胞

- 10 介入研究はどれか。
- a 横断研究
 - b コホート研究
 - c 症例対照研究
 - d ケースシリーズ研究
 - e ランダム化比較試験(RCT)
- 11 酸素投与方法、酸素流量と想定される吸入酸素濃度の組合せで正しいのはどれか。
- a 鼻カニューラ 2 L/分 ————— 20 %
 - b 鼻カニューラ 4 L/分 ————— 50 %
 - c マスク 6 L/分 ————— 80 %
 - d リザーバー付きマスク 7 L/分 ———— 50 %
 - e リザーバー付きマスク 10 L/分 ———— 90 % 以上
- 12 大動脈解離による腰背部痛の特徴はどれか。
- a 突然の発症
 - b 数日間の高熱の先行
 - c 前屈での痛みの軽減
 - d 圧迫による痛みの軽減
 - e 呼吸による痛みの強さの変動

13 急性副鼻腔炎の症状のうち、緊急手術の必要性を示唆するのはどれか。

- a 鼻 閉
- b 頬部痛
- c 膿性鼻汁
- d 視力低下
- e 嗅覚低下

14 散瞳して行う検査はどれか。

- a 視野検査
- b 調節検査
- c 隅角検査
- d 両眼視機能検査
- e 蛍光眼底造影検査

15 咳嗽を伴うことが少ないのはどれか。

- a 気管支喘息
- b 細菌性肺炎
- c 過換気症候群
- d 慢性気管支炎
- e 特発性肺線維症〈IPF〉

16 患者中心の医療を実践するにあたり適切でないのはどれか。

- a 患者の意向の確認
- b 患者の感情への配慮
- c 患者との対立の解消
- d 患者からの質問の制止
- e 患者とのパートナーシップ

17 感度 80 %、特異度 60 % の検査の陽性尤度比はどれか。

- a 0.3
- b 0.5
- c 1.3
- d 2.0
- e 4.8

18 介護保険の要介護認定の申請先はどれか。

- a 保健所
- b 市区町村
- c 地域医療拠点病院
- d 在宅療養支援診療所
- e 社会福祉事務所

19 ネフローゼ症候群を併発した全身性エリテマトーデス〈SLE〉のため副腎皮質ステロイドによる治療を受けていた患者が、経過中に糖尿病と細菌性肺炎とを発症し、敗血症性ショックとなり死亡した。死亡診断書の様式の一部(別冊No. 1)を別に示す。

死亡診断書の作成にあたり、「死亡の原因」の「(ア)直接死因」に記載すべきなのはどれか。

- a 糖尿病
- b 細菌性肺炎
- c ネフローゼ症候群
- d 敗血症性ショック
- e 全身性エリテマトーデス〈SLE〉



20 医師の職業倫理に**反する**のはどれか。

- a 講演会に出席して新薬の説明を受ける。
- b 手術成績の良い外科医に患者を紹介する。
- c 病院経営改善を目的として検査の件数を増やす。
- d 医療機器メーカー主催の医療機器講習会に参加する。
- e 治験薬剤の適応に合致する患者に治験への参加を提案する。

21 慢性腎炎症候群のうち最も頻度が高いのはどれか。

- a IgA 腎症
- b 膜性腎症
- c 膜性増殖性糸球体腎炎
- d 巣状分節性糸球体硬化症
- e 基底膜菲薄化症候群〈良性家族性血尿〉

- 22 検査前確率〈事前確率〉が変わると変化するのはどれか。
- a 感 度
 - b 特異度
 - c 適中度〈的中度〉
 - d 偽陰性率
 - e ROC 曲線
- 23 治験審査委員会・倫理審査委員会〈IRB〉が行うのはどれか。
- a 研究の効果判定
 - b 研究の資金調達
 - c 介入研究の比較群の割付
 - d 研究の科学的妥当性の評価
 - e 被験者への説明と同意の取得
- 24 妊娠初期の性器出血の原因として正しいのはどれか。
- a 子宮破裂
 - b 前置胎盤
 - c 癒着胎盤
 - d 絨毛膜下血腫
 - e 常位胎盤早期剝離

25 8か月の乳児。今朝からの発熱を主訴に母親に連れられて休日診療所に来院した。①体をさすると開眼するが、②すぐに寝てしまう。③皮膚色はピンク色で④ツルゴールは軽度低下している。⑤口唇の乾燥は軽度である。

この児において、重篤な疾患を疑う所見は下線のどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

26 86歳の男性。誤嚥性肺炎のために1週間入院し、経過は順調である。入院前から高血圧症で薬物療法を受けているが、それ以外の基礎疾患はない。認知機能は問題ない。日常生活動作は介助を必要としないが、筋力低下によって歩行が不安定で屋外は見守りが必要である。入院中はきざみ食にとろみをつけて提供し、嚥下訓練を施している。要介護度は要支援2である。82歳の妻と2人暮らしだが、息子夫婦が隣接する市に住んでおり入院前から週に2、3回は様子を見に通っていた。

自宅への退院にあたり必要なのはどれか。

- a 胃瘻の造設
- b 家族への調理指導
- c 家族への排泄介助の指導
- d 訪問入浴介護サービスの手配
- e 訪問診療による末梢静脈栄養療法

27 28歳の女性。1年前から口唇ヘルペスで3回の治療を受けた。歩行時の息苦しさを主訴に受診し、ニューモシスチス肺炎と診断された。ニューモシスチス肺炎の治療と同時に基礎疾患が検索され、HIV感染症と診断された。性交渉のパートナーは男性のみで特定の3人である。喫煙は22歳から10本/日。飲酒はビール350mL/日。血液所見：赤血球468万、Hb14.7g/dL、白血球7,600(好中球60%、好酸球3%、好塩基球1%、単球8%、リンパ球28%)、CD4陽性細胞数180/mm³(基準800~1,200)、血小板15万。血液生化学所見：総ビリルビン0.7mg/dL、AST68U/L、ALT128U/L、LD305U/L(基準176~353)、尿素窒素15mg/dL、クレアチニン1.0mg/dL。免疫血清学所見：HBs抗原陽性、HBs抗体陰性、HBV-DNA陽性、HCV抗体陰性。

この患者の抗HIV治療薬の選択において最も重要なのはどれか。

- a 飲酒歴
- b 喫煙歴
- c B型肝炎の合併
- d 口唇ヘルペスの既往
- e 性交渉のパートナーの人数

28 68歳の男性。複視を主訴に来院した。昨日の夕方、自動車を運転中に突然対向車が二重に見えるようになり、今朝になっても改善しないため受診した。7年前から糖尿病の治療を受けている。眼位は、左眼は正中位、右眼は内転位をとっている。複視は正面視で自覚し、右方視で増強するが、左方視では消失する。

最も考えられるのはどれか。

- a 左MLF症候群
- b 右外転神経麻痺
- c 左動眼神経麻痺
- d 右滑車神経麻痺
- e 左Horner症候群

29 1歳10か月の男児。咳と喘鳴とを主訴に母親に連れられて来院した。昨日歩きながらピーナッツの入った菓子を食べていた時に、急にむせ込んで咳をし始めた。本日も咳が持続し喘鳴が出現したため受診した。体温 36.7℃。脈拍 108/分、整。呼吸数 30/分。SpO₂ 98 % (room air)。吸気時と呼気時の胸部エックス線写真(別冊 No. 2)を別に示す。

この患児にまず行う処置として正しいのはどれか。

- a 酸素投与
- b 開胸手術
- c 抗菌薬静脈内投与
- d Heimlich 法の施行
- e 気管支内視鏡による摘出

別 冊

No. 2

30 31歳の1回経産婦。妊娠32週1日。性器出血を主訴に妊婦健康診査を受けている周産期母子医療センターに来院した。10日ほど前にも少量の性器出血があり、3日間の自宅安静で軽快したという。本日自宅で夕食作りをしていたとき、突然、性器出血があり、慌てて受診した。第1子を妊娠38週で正常分娩している。体温36.5℃。脈拍88/分、整。血圧102/62 mmHg。来院時、ナプキンに付着した血液は約50 mLだった。腔鏡診で計250 mLの血液および凝血塊の貯留を認め、子宮口から血液流出が続いているのが観察された。腹部超音波検査で胎児推定体重は1,850 g、羊水量は正常。胎児心拍数陣痛図で子宮収縮はなく、胎児心拍数波形に異常を認めない。経腔超音波像(別冊No. 3)を別に示す。

対応として正しいのはどれか。

- a 帝王切開を行う。
- b 子宮頸管縫縮術を行う。
- c 翌日の受診を指示し帰宅させる。
- d β_2 刺激薬の点滴静注を開始する。
- e オキシトシンの点滴静注を開始する。

別 冊

No. 3

31 83歳の女性。右大腿骨頸部骨折のため手術を受けた。手術当日の夜は意識清明であったが、手術翌日の夜間に、死別した夫の食事を作るために帰宅したいなど、つじつまの合わない言動が出現した。これまで認知症を指摘されたことはない。

この病態について正しいのはどれか。

- a 生命予後は悪化しない。
- b 抗精神病薬は禁忌である。
- c 認知症の初発症状である。
- d 意識の混濁が短時間で変動する。
- e ベンゾジアゼピン系薬剤が適応である。

- 32 救急外来に日本語を話せない40歳の外国人女性が来院した。病院に勤務している外国人医師が英語で医療面接と身体診察とを行い、記載した診療録の一部を示す。

Presenting complaint:

Severe lower abdominal pain.

History of presenting complaint:

Sudden onset of right lower abdominal pain 6 hours ago.

Pain has been gradually worsening.

Slight nausea but no vomiting or diarrhea.

Last menstruation was 9 weeks ago.

She noticed vaginal spotting* 3 days ago.

Past medical and social history:

Appendectomy at 18.

Married.

Examination:

Temperature 36.3 °C.

Right lower abdominal tenderness without rebound tenderness.

Bowel sounds are reduced.

* vaginal spotting(少量の性器出血)

可能性の高い疾患はどれか。

- a Crohn's disease
- b Ectopic pregnancy
- c Pelvic inflammatory disease
- d Premenstrual syndrome
- e Ureterolithiasis

33 59歳の男性。左腎細胞癌の診断で腎部分切除術を受け入院中である。手術2時間後にドレーンから血性の排液があり、意識レベルが低下した。JCS II-20。脈拍152/分、整。血圧56/42 mmHg。呼吸数16/分。SpO₂は測定できなかった。腹部は軽度膨満している。血液所見：赤血球218万、Hb 5.0 g/dL、Ht 18%、白血球9,300、血小板15万。

次に行うべき処置として誤っているのはどれか。

- a 酸素投与
- b 赤血球輸血
- c 血小板輸血
- d 細胞外液の投与
- e ノルアドレナリン投与

34 35歳の男性。黄疸を主訴に来院した。1週間前から全身倦怠感を自覚していたが、2日前に家族から眼の黄染を指摘されたため受診した。1か月前にシカ肉を焼いて食べたが一部生焼けであったという。意識は清明。身長174 cm、体重70 kg。体温36.5℃。脈拍76/分、整。血圧128/76 mmHg。呼吸数18/分。眼瞼結膜に貧血を認めない。眼球結膜に黄染を認める。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、圧痛を認めない。肝を右季肋部に2 cm触知する。脾を触知しない。血液所見：赤血球451万、Hb 13.8 g/dL、Ht 44%、白血球4,600、血小板21万、PT-INR 1.0(基準0.9~1.1)。血液生化学所見：総蛋白7.8 g/dL、アルブミン4.3 g/dL、総ビリルビン4.5 mg/dL、直接ビリルビン2.2 mg/dL、AST 406 U/L、ALT 498 U/L、LD 426 U/L(基準176~353)、ALP 486 U/L(基準115~359)、 γ -GTP 134 U/L(基準8~50)。免疫血清学所見：CRP 1.0 mg/dL、HBs抗原陰性、HCV抗体陰性。腹部超音波検査で肝は腫大し胆嚢は萎縮しているが、胆管の拡張はみられない。

対応として正しいのはどれか。

- a 安静を指示する。
- b 血漿交換を行う。
- c シクロスポリンを投与する。
- d インターフェロンを投与する。
- e 内視鏡的胆道ドレナージを行う。

35 65歳の男性。会社役員。間質性肺炎のために入院している。看護師から担当医へ、患者が咳で眠れないと訴えていることに加え、態度が威圧的であるという連絡があった。

患者へ治療方針を説明するにあたり担当医として適切でないのはどれか。

- a 治療に対する希望を尋ねる。
- b 治療に関する最新の知見を調べる。
- c 会社役員なので優遇して診療を行う。
- d 看護師と治療に関する情報を共有する。
- e 患者の態度にかかわらず丁寧に説明する。

36 36歳の女性。悪心と嘔吐とを主訴に来院した。1週間前から微熱、悪心および全身倦怠感を自覚していた。今朝一回嘔吐した。既往歴に特記すべきことはない。月経周期30～60日、不整。最終月経は記憶していない。3週間前に市販のキットで実施した妊娠反応は陰性であったという。母親は糖尿病で治療を受けている。身長159 cm、体重49 kg。体温37.0℃。脈拍72/分、整。血圧102/58 mmHg。皮膚は乾燥している。腹部は平坦で、圧痛を認めない。

まず行うべきなのはどれか。

- a 腹部CT
- b 妊娠反応
- c 脳脊髄液検査
- d 上部消化管内視鏡検査
- e 経口ブドウ糖負荷試験

37 21歳の男性。左示指の切創を主訴に来院した。飲食店のアルバイトをしている際に受傷した。

適用となる保険はどれか。

- a 傷害保険
- b 協会けんぽ
- c 国民健康保険
- d 組合管掌健康保険
- e 労働者災害補償保険

38 50歳の男性。咳嗽を主訴に来院した。2か月前から咳嗽があり、他院で肺炎と診断され抗菌薬を処方されたが改善しないため受診した。喫煙は40本/日を30年間。意識は清明。身長175 cm、体重78 kg。体温36.5℃。脈拍88/分、整。血圧126/80 mmHg。呼吸数15/分。SpO₂ 96% (room air)。心音と呼吸音とに異常を認めない。血液所見：赤血球508万、Hb 14.8 g/dL、白血球5,600、血小板25万。血液生化学所見：総ビリルビン0.6 mg/dL、AST 10 U/L、ALT 21 U/L、LD 425 U/L (基準176~353)、尿素窒素14 mg/dL、クレアチニン1.2 mg/dL、CEA 2.9 ng/mL (基準5.0以下)、SCC 1.2 ng/mL (基準1.5以下)、ProGRP 350 pg/mL (基準81以下)。CRP 0.3 mg/dL。胸部エックス線写真(別冊No. 4A)と胸部CT(別冊No. 4B)とを別に示す。気管支鏡下生検で肺癌と診断された。

肺癌の組織型として最も可能性が高いのはどれか。

- a 大細胞神経内分泌癌
- b 扁平上皮癌
- c 小細胞癌
- d 大細胞癌
- e 腺癌

別冊 No. 4 A、B

39 2歳の男児。発熱と呼吸困難のため救急車で搬入された。本日朝、38.8℃の発熱と呼吸困難とに両親が気づき救急車を要請した。来院時の体温39.8℃。心拍数120/分、整。呼吸数28/分。SpO₂96%(リザーバー付マスク5L/分 酸素投与下)。毛細血管再充満時間は1秒と正常である。呼吸困難は仰臥位で増悪し、座位でやや軽快する。下顎を上げた姿勢で努力呼吸を認める。嚥下が困難で唾液を飲み込むことができない。心音に異常を認めない。呼吸音では、吸気時に喘鳴と肋間窩の陥入を認める。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。

最も優先すべきなのはどれか。

- a 喉頭内視鏡での気管挿管
- b 呼気時の胸部エックス線撮影
- c 舌圧子を用いた咽頭の視診
- d エピネフリン吸入
- e 動脈血ガス分析

次の文を読み、40、41の問いに答えよ。

22歳の女性。腹痛、嘔吐および発熱を主訴に来院した。

現病歴 : 午前6時ごろから心窩部痛を自覚した。痛みは徐々に右下腹部に移動し、悪心、嘔吐および発熱が出現したため午前9時に救急外来を受診した。

既往歴 : 特記すべきことはない。

生活歴 : 喫煙歴と飲酒歴はない。

現症 : 意識は清明。身長153 cm、体重48 kg。体温37.6℃。脈拍100/分、整。血圧118/62 mmHg。呼吸数24/分。頸静脈の怒張を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦で、右下腹部に圧痛を認める。下腿に浮腫を認めない。

検査所見 : 血液所見：赤血球368万、Hb 11.9 g/dL、Ht 36%、白血球9,800、血小板23万。血液生化学所見：尿素窒素22 mg/dL、クレアチニン0.9 mg/dL。CRP 5.2 mg/dL。腹部超音波検査と腹部単純CTとで虫垂の腫大を認める。

40 直ちに手術は必要ないと判断し、入院して抗菌薬による治療を開始することにした。①抗菌薬投与の指示を出す際に、適切な溶解液が分からず薬剤部に問い合わせた。②末梢静脈へのカテーテルの刺入を2回失敗し、3回目で成功した。③抗菌薬投与前に、点滴ボトルに別の患者の名前が記してあることに気が付いた。④正しい抗菌薬の投与を午前11時に開始したところ、30分後に患者が全身の痒みを訴え全身に紅斑が出現した。⑤抗菌薬を中止し様子をみたところ、午後2時まで紅斑は消退した。

インシデントレポートの作成が必要なのは下線のどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

その後の経過　：　腹痛は持続し、午後5時ごろから体温がさらに上昇し、悪寒を訴えた。体温 39.3℃。脈拍 124/分、整。血圧 80 mmHg (触診)。

41 この時点で直ちに行うべき治療はどれか。

- a β 遮断薬急速静注
- b 抗ヒスタミン薬静注
- c 生理食塩液急速輸液
- d ペンタゾシン静注
- e 副腎皮質ステロイド静注

次の文を読み、42、43の問いに答えよ。

76歳の女性。息切れを主訴に来院した。

現病歴 : 1年前から息切れを自覚するようになり、3か月前から10分程度歩くと息切れがするようになった。3日前に風邪をひいてから息切れが増悪して動けなくなったため、同居の娘に伴われて総合病院の呼吸器内科外来を受診した。

既往歴 : 糖尿病、高血圧症、慢性心不全(NYHA II)、変形性膝関節症、骨粗鬆症および不眠で複数の医療機関に通院していた。半年前からこれらの医療機関の受診が滞りがちになっていた。

生活歴 : 娘と2人暮らし。日中、娘は仕事に出ている。摂食、排泄および更衣は自分でできるが、家事や外出は困難で、入浴は娘が介助している。喫煙は15本/日を45年間。飲酒歴はない。

現症 : 意識は清明。身長158 cm、体重42 kg。体温36.6℃。脈拍104/分、整。血圧120/76 mmHg。呼吸数28/分。SpO₂ 93%(room air)。皮膚は正常。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。頸部に甲状腺腫大やリンパ節を触知せず、頸静脈の怒張を認めない。呼吸補助筋が目立つ。心音に異常を認めない。呼吸音は両側の胸部に wheezes を聴取するが、crackles は聴取しない。腹部は平坦、軟。四肢に浮腫を認めない。改訂長谷川式簡易知能評価スケールは27点(30点満点)。

検査所見 : 胸部エックス線写真で肺の過膨張を認めるが、浸潤影や肺うっ血を認めない。心胸郭比は53%。胸部CTで全肺野に低吸収域(low attenuation area)を認める。

42 副腎皮質ステロイドの内服と β アゴニスト吸入の外来治療を4日間行い、呼吸器の急性症状は改善しSpO₂は96%(room air)となった。しかし、看護師から「これからも禁煙するつもりはないけど、病院には通わないといけないのかね」と患者が話していると聞いた。

この時点での患者への対応として最も適切なのはどれか。

- a 禁煙外来への通院を義務付ける。
- b かかりつけ医を紹介し定期受診を勧める。
- c 同居していない親族の状況を詳細に尋ねる。
- d 通院歴のあるすべての診療科への継続受診を勧める。
- e 症状再燃時でも安易に総合病院を受診しないように説明する。

43 この患者の療養を支援していくために重要性が低いのはどれか。

- a 訪問看護師
- b 成年後見人
- c 介護福祉士
- d ケアマネジャー
- e 近隣のボランティア

次の文を読み、44、45の問いに答えよ。

74歳の女性。持続する前胸部痛のため来院した。

現病歴 : 本日午前7時45分、朝食の準備中に突然、咽頭部に放散する前胸部全体の痛みと冷汗とを自覚した。意識消失、呼吸性の痛みの変動および胸部の圧痛はなかったという。ソファに横になっていたが症状が持続するため、家族に連れられて自家用車で午前8時15分に来院した。症状を聞いた看護師が重篤な状態と判断し、直ちに救急室に搬入した。

既往歴 : 特記すべきことはない。

生活歴 : 特記すべきことはない。

家族歴 : 父親が80歳時に脳出血で死亡。母親が84歳時に胃癌で死亡。

現症 : 意識は清明。身長158cm、体重56kg。体温36.5℃。脈拍92/分、整。血圧120/80mmHg。呼吸数18/分。SpO₂99%(room air)。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。直ちに施行した心電図(別冊No.5)を別に示す。

44 最も可能性が高いのはどれか。

- a 胸膜炎
- b 急性冠症候群
- c 上室性頻拍
- d 肺血栓塞栓症
- e 完全房室ブロック

別冊

No. 5

検査所見(午前 8 時 25 分の採血) : 血液所見: 赤血球 416 万、Hb 12.6 g/dL、Ht 36 %、白血球 9,800、血小板 20 万、D ダイマー 0.7 μ g/mL(基準 1.0 以下)。血液生化学所見: AST 26 U/L、ALT 30 U/L、LD 254 U/L(基準 176~353)、CK 118 U/L(基準 30~140)、尿素窒素 16 mg/dL、クレアチニン 1.6 mg/dL、血糖 98 mg/dL、心筋トロポニン T 陰性。胸部エックス線写真で異常を認めない。

45 緊急処置の準備中、突然、うめき声とともに意識消失した。呼吸は停止しており脈を触れない。胸骨圧迫とバッグバルブマスクによる換気を開始した。このときのモニター心電図(別冊No. 6)を別に示す。

この患者に直ちに行うべきなのはどれか。

- a ニトログリセリン静注
- b アドレナリン静注
- c アミオダロン静注
- d アトロピン静注
- e 電気ショック

別 冊 No. 6

次の文を読み、46、47の問いに答えよ。

66歳の男性。発熱、頭痛および嘔吐のため救急車で搬入された。

現病歴 : 2日前から38℃の発熱があった。昨日、頭部全体の頭痛が出現し徐々に増悪して、市販の鎮痛薬を内服しても改善しなかった。さらに嘔吐を繰り返すようになったため、同居する妻が救急車を要請した。

既往歴 : 58歳時から高血圧症のため内服治療中。

生活歴 : 妻と2人暮らし。長年、事務職をしていた。喫煙は20本/日を35年間。飲酒はビール350mL/日を30年間。

家族歴 : 父親が高血圧症。母親が大腸癌で死亡。

現症 : 意識レベルはJCS I-1。身長173cm、体重52kg。体温38.7℃。心拍数90/分、整。血圧110/66mmHg。呼吸数22/分。SpO₂98%(room air)。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。瞳孔不同はなく、対光反射は両側正常。口腔粘膜に異常を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。

46 診断のためにまず確認すべき所見はどれか。

- a 眼振
- b 筋強剛
- c 項部硬直
- d Barré 徴候
- e Babinski 徴候

47 診断のために血液培養の検体を採取することにした。

採取にあたり適切なのはどれか。

- a 2セット採取する。
- b 抗菌薬投与後に採取する。
- c 採取後は検体容器を冷蔵する。
- d 手指消毒後、素手で採取する。
- e 動脈からの採取が優先される。

次の文を読み、48、49の問いに答えよ。

20歳の女性。体重減少を主訴に来院した。

現病歴 : 生来健康であった。2か月前の健康診断では47kgであった体重が40kgになった。食事量は以前と変わらず、過食や嘔吐はない。倦怠感が強く、暑がりになり、夜は眠れなくなった。

既往歴 : 12歳時に急性虫垂炎で手術。輸血歴はない。

生活歴 : 大学生。喫煙歴と飲酒歴はない。

家族歴 : 父親が高血圧症。

現症 : 意識は清明。身長153cm、体重40kg。体温37.5℃。脈拍104/分、不整。血圧142/52mmHg。呼吸数16/分。前頸部の腫脹と手指振戦とを認める。腱反射は全体的に亢進している。

検査所見 : 血液所見：赤血球462万、Hb13.2g/dL、Ht40%、白血球4,600、血小板28万。血液生化学所見：AST35U/L、ALT40U/L、血糖85mg/dL、HbA1c5.2%(基準4.6~6.2)、Na142mEq/L、K3.8mEq/L、Cl104mEq/L。

48 この患者でみられる可能性が高いのはどれか。

- a 咳嗽
- b 月経異常
- c 多尿
- d 皮膚乾燥
- e 便秘

49 診断に最も有用な血液検査項目はどれか。

- a インスリン
- b アルブミン
- c コルチゾール
- d カテコラミン
- e 甲状腺刺激ホルモン〈TSH〉

